

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年8月29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670400185
法人名	社会福祉法人 明星福祉会
事業所名	南方園グループホーム けやきの里
所在地	鹿児島県枕崎市まかや町679番地 (電話) 0993-76-3461
自己評価作成日	平成23年7月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年8月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれ、四季折々の景色が楽しめるけやきの里では、愛犬「はな」と共に散歩や木陰でお茶など楽しんでいます。地域に開放されている交流センターでのクッキング教室や温泉を利用するなど、地域の方々との触れ合いを大切にしています。日中できるだけ屋外での活動を支援し、夜の安眠へとつなげて、みなさん生き生きと穏やかな生活をされています。又、隣接する介護老人福祉施設と協力し、地域連携、防災、職員研修など積極的に参加し職員の質の向上に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・このホームの同じ敷地内に介護老人福祉施設があり、法人の運営方針である地域とともに開かれた施設を目指し運営がなされている。豊かな生活環境が提供されており、利用者の表情や言動に落ち着きがみられる。
- ・玄関前のけやきの大木が施設の象徴であり、大きな日陰が生活の憩いの場となっている。
- ・利用者のために犬が飼育され、犬と利用者が良好な関係を保つことにより、ホームの暮らしにうるおいを与えているのも特徴的である。愛犬「はな」も利用者のパートナーとしての存在感が大きい。
- ・地域の方々や施設の機能や設備を活用しながら入居者との交流が図られている。
- ・利用者との馴染みの関係が保たれるように職員の異動はなく、安定した利用者支援が行われている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域の方々との交わりを大切にすることを理念に掲げ、日常的に買い物や散歩、他施設の催し等に出かけて地域の方々との交流を図っている	地域密着型サービスの意義をふまえ、職員が独自で「けやきの里」の理念を作成している。「地域とともに」を基本に全職員が共有しながら地域との交わりを大切にし、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩の途中での地域の方との会話や、他グループホームとの交流会など年間を通して実施している	散歩中の地域住民との会話やふれあいは日常的に行われており、収穫した野菜を持ってホームに立ち寄りたり、遊びに来られる等、交流が行われている。併設の交流センターの入浴サービスやクッキングスクール等で地域住民との交流の場を設けている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	見学者や実習生など随時受け入れを行い、認知症の人の理解やケアの方法を説明している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出された意見や要望は勉強会やミーティングで取り上げサービスに活かしている	行政・地域住民代表・利用者全員・家族代表の参加で2ヶ月毎に実施している。評価への取り組み状況や行事の報告・家族からの意見・利用者の要望についての話をしてもらおう等、サービスに取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎月現状報告を行っている。又、市の主催する研修会へ参加し、交流を深めている	市の担当者に毎月利用者の状況等の報告を行っている。2ヶ月毎に開催される市の研修会に参加している。市との連携をとり協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に勉強会をし、職員の理解を深めている。日中は、自由に出入りし、庭の散策や木陰でお茶を飲むなど、屋外活動を多く行っている	身体拘束廃止について、職員は月2回定期的に勉強会を実施し、全職員共通の理解のもとで支援している。日中は玄関に施錠する事はなく、自由に出入りをしている。利用者は庭のけやきの下でくつろいでいる事が多く、生活を束縛しないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会をし、全職員が虐待に対する弊害を心得ている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	併設事業所の勉強会に参加し、理解を深めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、ケアに関する取り組みや、考え方を説明している。退居についても家族や本人の意向を聞くようにしている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議やけやき便りなどで、意見や要望など伺うようにしている。又、面会時の会話の中で聞くようにしている。出された意見や要望は、サービスに反映するようにしている</p>	<p>利用者は全員地元の人であり、日頃から家族との交流ができています。また運営推進会議にも利用者は全員参加している。面会時や電話・「けやき便り」等を通して意見や要望など積極的に聞き、運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>気づきノートに感じた事や思いを書くようにし、ミーティングで検討し、サービスにつなげている</p>	<p>毎日のかかわりの中で、利用者の気になる事や発見したこと等、なんでも「気づきノート」に記載するようにしている。気づきの中から勉強会やミーティング・申し送り等で話し合い、サービスに反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>夜勤専門職員を配置し、緊急時の勤務変更などに対応できる体制を作っている。又、休みの希望など可能な限り応えていくよう勤務表を作成している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実務者研修など外部の研修への参加や、毎月1回の法人勉強会、月2回の事業所勉強会を開催している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>処遇接遇教育委員会を中心に毎月研修会を実施しており、多くのスタッフが参加している。又、年間5回以上他施設との交流を実施。情報交換を行い、ケアの向上に役立てている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に出向いて面接や見学などしていただき、本人・家族に、ここでの暮らしぶり、食事の様子を見てもらうなどの機会を設けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での状況や以前の介護保険サービス状況について訪ね、事業所としてどのように対応できるか話し合い、ケアプランに反映している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の希望があれば他のサービス（デイケア）などの利用も可能であることを伝えている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜作りやそば作りなど、お年寄りに教わる場面が多々ある。人生の先輩という姿勢で接するように心がけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、けやき便りにて生活状況を報告し、家族と共に考えていくようにしている。必要であれば手紙や電話で連絡し、要望をうかがっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅周辺をドライブしたり以前から習慣であった教会へ、毎月出かけられるよう連絡時はすぐに準備し、外出できる支援を行っている	本人がこれまで大切にしてきた信仰上のしきたりを続けられるように支援したり、友人との外食の支援等、定期的な外出については家族や友人に依頼している。人や場の関係性の継続が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いにお茶を入れあったり散歩の時手を差しのべたりと仲のいい入居者同士、お互い助け合いやすい座席の位置や散歩時の配置など考慮している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の施設へ面会に行くなど関係性を大切にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に家族からの情報や担当ケアマネからの情報収集に努め本人本位に検討している	本人・家族からの情報や前施設担当者や関連施設との連携に努め、一人ひとりの思いや意向を把握している。困難な場合は本人の状況を見ながら、また家族と相談して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時のカンファレンス、家族の面会時や本人との語りの中で察したり伺うなどしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の表情や気分の観察を常に心がけ、その時出来ること、出来そうなことをさりげなく促している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントの段階から家族、本人、職員を含めて話し合い、本人の望む生活を支えることを心がけてケアプラン作成している	毎日の気づきノートからケース記録や個別支援経過としてまとめ、本人や家族・職員と話し合い、本人の望む生活を支える介護計画を作成している。またモニタリングで評価して見直ししている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>申し送り・気づきノートをホールに置き、いつでも記入できるようにしている。ノートを基にミーティングや朝夕の申し送り時に取り上げ情報の共有を図っている。ケース記録に記入、必要に応じてプランの見直しをしている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況に応じて、買い物や墓参り、通院等の支援を行っている</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアの受け入れや地域消防団との連携が取れており防災訓練、救急法の講習など定期的に実施されている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の意向を確認しながら、事業所の協力医や以前からのかかりつけ医と連携を取り、通院や往診など必要な時に、適切に医療が受けられるよう支援している</p>	<p>本人や家族の意向を確認し、かかりつけ医や事業所の協力医療機関と連携をとっている。また、月1回の応診があり、夜間は併設の当直医と連携し適切な医療を受ける支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師が定期的に訪問し、指導や相談をしている。又、緊急の場合などいつでも相談できる体制にある</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力病院の往診を受け、情報の共有化や看護職員との面識、連絡体制も構築されている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際に家族へ重度化対応・終末期ケア対応指針を説明し理解を得ている。又、アンケートを取り、本人、家族の希望を踏まえて訪問看護師や主治医、協力医の指導のもと希望に添えるよう努力している</p>	<p>入居時に重度化や終末期ケア対応指針を説明し、理解を得ている。また、確認書も用意している。本人・家族の希望や意向をふまえ、医師・看護師とともにチームで支援に取り組んでいる。急変時の対応はマニュアルを作成している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時は、隣接している施設の看護師へ連絡するようマニュアルを作成し手順に添って対応できている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震を含めた防災・避難訓練や消火訓練を夜間も想定し、年に数回行っている。	隣接の介護老人福祉施設との連携をとり、訓練も共同で開催している。地域住民や消防団との連携も万全である。緊急時に備えカセットコンロやインスタント麺、缶詰類の備蓄があり、水については隣接施設の貯水槽タンクから利用できる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
VI. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録物など来訪者の目に触れないよう事務所に鍵をし、保管している。名前の呼び方に配慮し、会話の際も敬語を使うよう心掛けている。	利用者には、年配者としての尊厳をもった言動で接している。親しみが持てるように全職員で統一して名前呼び、穏やかな表情で過ごしている。誇りやプライバシーが確保されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や入浴など希望を伺いながら援助し、洋服選びは、本人に確認しながら一緒に準備している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時など本人の意思を尊重し、それぞれの時間で行動されている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節ごとに衣類を準備し、自分で選んでもらい、できない方は利用者と共に選び、できないことは支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りや盛り付け、片付けなど役割を持ち行っている	食事は向かい合わせで座り、献立について話ながら楽しくたべている。季節感ある食材を選び、各自が役割を持ち、職員と一緒に準備・食事作り・片付け等をしている。職員の検食もあり、安全な食事が提供されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接している施設の管理栄養士にアドバイスをもらいながら多くの食材を用い、バランスのいい食事を提供している。又、毎月体重測定にて状態の把握を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、できる方へは声掛けにて口腔ケアを促し、できない方は義歯洗浄、うがいなど支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を基に、個別にトイレ援助を行っている。できるだけトイレでの排泄を心がけている。	毎回の排泄状況を記録し、個々の排泄パターンを把握している。日中はリハビリパンツを使用したり、時間や状況を見てトイレ誘導を行い、排泄の自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く取り入れた献立にしたり、水分を多く摂れるようコーヒーや紅茶など本人の嗜好を取り入れている。又、散歩や軽い運動などを毎日実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めているが希望があれば毎日でも入浴できるよう柔軟に対応している。併設の温泉センターなども利用している	入浴日は決められているが、入浴希望者にはいつでも対応できるようにしている。入浴拒否される利用者には時間を置いて声かけをしたり、併設の温泉センターを利用し大浴場でゆっくり楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床など本人に伺いながら希望に添った対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬管理のファイルに目を通すようにしており、副作用など周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で洗濯たたみ、食事やおやつ作り、ゴミ捨て、買い物など可能なことを一緒にできるよう支援している。天気の良い日は木陰でお茶を楽しんでいる		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日の散歩や定期的にドライブなども実施し、時には本人や家族の希望に添って踊りやコンサート鑑賞、自宅周辺の訪問や、竹の子掘り、芋掘りなどにも出かけている	日常的には全員で散歩を行い、施設前のけやきの大木の木陰でくつろいでいる。本人や家族の希望があれば、外出支援を行い、ドライブにも月2～3回はかけている。遠方への墓参りや旅行など家族の協力を得て外出支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>能力に応じて、小遣い程度のお金を渡し、自分で管理している。買い物に出かける時財布を持って行き、お菓子など購入する</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望があればその都度支援している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームの周りに季節の花を植え、仏壇や玄関、ホールには季節の花を飾り、休息できるようソファも準備し、自由にくつろがれている</p>	<p>玄関は家庭的な雰囲気、愛犬「はな」が迎えてくれる。窓からは自然な風が入り、周辺は緑豊かである。季節の花を飾り、心安らぐように仏壇を安置するなど、居心地よく過ごせるように工夫している。またソファを設置し、ゆっくりくつろげる場が提供されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにはソファを置き、仲のいい人同士、自由に話や昼寝などされている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅よりタンスやテレビ、鏡台、座椅子など持ち込み、家族の面会時など配置換えなども行っている</p>	<p>入居時に好みの物や馴染みの家族の写真や飾り物・ぬいぐるみ等を持ち込み、居室はフローリングで、ベッドを使用し、その人らしく暮らせる居心地のよい居室になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホールには手すりを取り付け、移動の際利用されている。ベッドにも立ち上がりしやすいよう、移動バーを付けるなど機能に応じて配慮している</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない